

令和5年度

飯綱町教育委員会事務の管理及び
執行状況の点検及び評価の報告書



飯綱町教育委員会

目 次

- ・趣旨、点検・評価の対象、方法・・・・・・・・ P1

- ・教育委員会の基本方針・・・・・・・・ P2

- ・点検評価の結果
 - 方針1 教育分野・・・・・・・・ P4
 - 方針2 子育て・子育て環境の充実・・・・・・・・ P14
 - 方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実・・・ P16
 - 方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める・・・ P17

- ・学識経験者からの意見聴取の結果・・・・・・・・ P19

1、趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育に関する課題や取り組みの方向性を明らかにし、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検並びに評価（以下「点検・評価」という。）を行います。さらに、教育に関し学識経験等を有する者から得た知見と合わせ、報告書を議会に提出し公表します。

2、点検・評価の対象

令和6年度の点検・評価は、前年度である令和5年度分の事業実績を対象とします。

対象範囲は、地教行法第23条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、本教育委員会が所管するすべての事業です。このうち、本教育委員会作成の「令和5年度飯綱町教育委員会基本方針」における「方針と目標」の具体的実施事業の主なものを点検・評価の対象としています。

3、点検・評価の方法

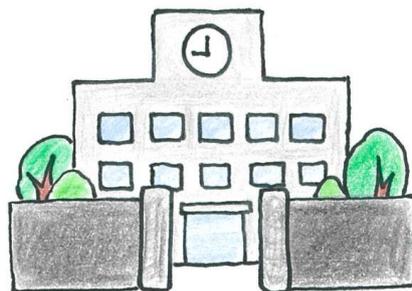
- (1) 令和5年度飯綱町教育委員会基本方針に基づき、重点事業として取り組んだ主な事業について、点検及び評価を行いました。
- (2) 教育に関して学識経験等を有する外部者からの意見聴取を行い、その結果を掲載しました。なお、ご意見等いただいた方々は次のとおりです。
 - ・ 飯綱町学校運営協議会委員
 - ・ 子育て世代支援施設運営委員
 - ・ 保育所運営委員
 - ・ 社会教育委員
 - ・ いいづな歴史ふれあい館協議会委員
- (3) 点検・評価の結果については、定例教育委員会において審議しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



方針1 教育分野

目標 ふるさとに誇りをもって豊かな人生を歩める力を育む教育環境をつくります

(1) 飯綱町ならではの教育環境の構築

① ふるさとを愛する心が育つ教育の推進

飯綱町コミュニティスクール運営協議会が核となり、学校、PTA と地域が連携し、町の宝である子どもを見守り、育てていきます。

教科や総合的な学習の時間を活用し「教育ファーム事業※1」を実施し、飯綱町の歴史や産業について学んだり体験したりすることでふるさとを愛する心を育みます。

講師派遣や登下校の見守り隊、各種ボランティア活動を通して、地域住民が子どもたちに寄り添い成長を見守ります。

小中学校の教職員に飯綱町を知ってもらい、飯綱町を好きになってもらうことで学校の教育活動がよりよくなることを願い、町教育委員会主催の教職員研修を実施します。

② 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

小中学校に町費の講師を配置し、教科担任制の充実を図ったり、少人数学習の環境を整えたりすることで、学習環境の充実を図ります。また、小中学校にALTを配置し、国際感覚や価値観の多様性を学ぶことで、グローバル人材の育成につなげます。

総合的な学習の時間の活動や校外学習、芸術鑑賞等の学習活動、教材費の補助等を行うことで、幅広く豊かな学習環境を保障します。

③ 心と体を育む食育の推進

地産地消、有機食材を活用した、安心・安全でおいしい給食の提供に努めます。

また、郷土料理をメニューに取り入れるなど、地域の食文化の啓発に努めます。「おらほの学校応援団」の協力を得ながら、農村に伝わる食文化の学習を進めます。

④ GIGA スクール構想の推進

ICT 機器を有効に活用し、個別最適な学習や情報教育の充実につながるよう環境を整えます。また、教職員の研修の場を設けたり ICT 支援員を配置したりして教育の質の向上に努めます。

(2) 誰もが安心して教育を受けられる環境の整備

① 支援が必要な児童生徒への対応の充実

いじめ、体罰、DV、ヤングケアラー、不登校等子どもたちが直面している様々な問題を早期発見、早期支援につなげる体制づくりに努めます。相談体制としてスクールソーシャルワーカーの配置、子どもたちの居場所づくりとして中間教室等の設置を進めます。

② インクルーシブ教育・支援教育の充実

障がいの有無や程度に関わらずすべての子どもがお互いの個性や特性を認め合い、自他を肯定しながら共に学び、共に成長し合えるインクルーシブ教育をめざします。そのために、多様な学びを保障するリソースルーム等の学習環境の整備を進め、必要に応じて学習支援員や介助員を配置します。

③ 多様性を認め合う人権感覚の育成

人との関わり合いの中で、国籍、人種、宗教、価値観、性等の多様性をお互いに認め合い、自他の肯定感を高め合いながら成長できる人権教育を推進します。

④ 教職員の指導力の向上と働き方改革の推進

町費の講師、学習支援員、介助員を含めた教職員の研修の場を設け、教職員全体の指導力の向上や学校を越えた交流を図ります。

教職員の働き方改革を推進するため、地域ボランティアの活用、中学校の部活動の地域クラブ活動への移行を進めます。

⑤ 学校施設等の計画的な改修

校舎やグラウンド及び諸施設等を定期的に点検・補修し児童生徒の安全な学校生活を担保します。

また、児童生徒が安全で安心して登下校ができるよう、関係機関と連携して通学路を整備するとともに、スクールバス等を運行し安全の確保に努めます。

方針2 子育て・子育て環境の充実

目標 豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう

(1) 子どもが生き生きと育つ環境づくり

飯綱町子育て世代支援施設（みつどんのお家）を拠点に、妊娠期から子育て期をワンストップで支援していきます。

乳幼児期の子どもと保護者が一緒に遊んだり、交流できる場の提供や、母子保健に関わる妊婦検診、乳児検診、各種講習会等を行い、乳幼児の健やかな成長をサポートします。

また、ファミリーサポートセンター事業の充実を図ります。

(2) 楽しく子どもを育てられる環境づくり

子育て世代の多様な働き方を支援し、子育てと仕事の両立を応援します。ワークセンター事業、病後児保育、放課後児童クラブ運営等を充実させ、働きながら子育てをする世代を応援します。

(3) 子育てをしている女性への支援

ハード・ソフトの両面から、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援により、安心して子育てができる環境をつくります。

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

目標 健全な心と体を育てよう

(1) 多様な活動機会の創出

誰もがスポーツや芸術・文化に親しめる環境を整え、体験・鑑賞できる機会を創出します。また、地域団体のスポーツ、文化・芸術活動を支援し、住民の多様な活動を応援します。

(2) 文化の保存・継承・活用

ふるさとの歴史、産業、伝統文化、食文化等を学ぶ機会を創出し、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持つ心を育てます。また、文化財の保存、継承に努め、町の歴史を後世に伝えていきます。

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

目標 学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう

(1) 多様な学習機会の創出

町民が生涯にわたって学び続け、生涯学習を通じた生きがいがづくりや人との繋がりを広め、深めていく活動を支援します。また、そのために各種講座や講演会を企画したり、公民館活動の充実を図ります。

(2) 生涯学習拠点の充実

図書施設の機能やサービスの向上など、生涯学習拠点の維持管理に努め、活用を図ります。また、地域のコミュニティや学習の拠点となる地域集会施設の維持や整備を支援します。

4、点検・評価の結果

方針1 教育分野

目標 ふるさとに誇りをもって豊かな人生を歩める力を育む教育環境をつくります。

(1) 飯綱町ならではの教育環境の構築

① ふるさとを愛する心が育つ教育の推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】	
ふるさと学習、体験学習、キャリア教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間で、栽培活動や収穫したものを使っての調理活動を地域ボランティアの方の支援を受け行った。 飯綱町の歴史や史跡について、歴史ふれあい館や地域の方から学んだ。 地域の方を講師にお迎えしてわくわく未来塾を4回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> だんごりの会や地域の農家の方に、育て方や作り方、地域などへの思いをお聞きし、たくさんの気づきがあった。 公官庁やスーパー、フルーツセンターなど、地域で働く人の苦労や工夫、地域を思う心など新たな学びがあった。 小玉古道や用水など、町の歴史や昔の人たちの工夫を知り、郷土への愛情が深まった様子が見られた。 わくわく未来塾では、地域で活躍されている方の思いを聞き、自分の将来や目指す姿を思い描く様子が見られた。
課題	
<p>ご支援をいただいた方々には、今年もたくさんのご支援をいただきありがたかった。これまでの実践をデータベース化して今後活かせるようにするとともに、三水小学校とも情報を共有し、子どもたちの意識や実態に沿った素材や人材に出会うことができるようにしていきたい。</p>	
【三水小学校】	
ふるさと飯綱を知り、それを受け継ぎ、発信する。 <ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間を中心に地域学習を行った。 地域の方を講師に迎え「わくわく未来塾」を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育ファーム（だんごりの会）の皆さんに3年生はリンゴ染めや大豆を使った豆腐味噌づくり、5年生は「田んぼ学習」でご支援をいただき、飯綱町に伝わる文化・食育・産業について学び、「私たちの飯綱町」への思いを深めることができた。 「わくわく未来塾」では、身近な方の生き方に触れることで、自分自身のことも考えることができる活動となった。来年度も継続していきたい。
課題	
<p>これまで積み重ねてきた「ふるさと学習」を生かすことで、コロナ禍を経ても途切れることなく、地域の方から学ぶ機会を充実させることができた。しかし、ふるさと学習で学んだことを「発信」する活動の成果があまり見られなかった。ふるさと学習だけでなく教科学習においても、自らの思いを伝える力をつけていくことが課題となっている。</p> <p>ふるさと学習においても、学んだことを友だちや学級、学校、地域へと伝える子どもの育成に努めていきたい。</p>	

【飯綱中学校】	
ふるさと学習、体験学習、キャリア教育の充実 1年生 地域を見直す活動 リンゴ学習 いきいきサロン 2年生 飯綱町のプロフェッショナルを囲む会 職場体験学習 3年生 飯綱町の良さを発信するグループ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・三年間を通して「ふるさとを愛する心」を育むため地域学習を継続した。各学習を通じて次年度への学習意欲を高められた。 ・様々な題材を通じて飯綱町を学ぶことで、地域貢献の意識向上や自身のキャリア構想の具体化を育むことができた。
課題	
今後も3年間を通して「ふるさとを愛する心」の育成を基本理念とし、総合的な学習の時間で飯綱町を学ぶ機会をつくる。また飯綱町の他の学習題材についても研究し、柔軟に取り入れることも検討していく。	
【教育委員会】	
教育ファーム事業を通して、地域住民と行政が積極的に学校と関わり、農業、食育、地域固有の生活文化の理解及び伝承を学ぶ支援を行った。地域の支援者16人が延べ62回に渡りふるさと学習に携わった。 町の教職員研修では、飯綱町の小中学校の教職員を対象に歴史、自然、文化、町内巡回の4コースで研修を行い、90%を超える参加者があった。ふるさと学習を指導する先生たちが飯綱町を知るよい機会となっている。	

② 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】	
自立した学習者になることをめざして <ul style="list-style-type: none"> ・自ら問いを立て、自分から学びを進めていく学習が常態化するように、今年度も単元内自由進度学習を基盤にした授業を実践してきた。 ・協働的な学びの充実が図られるように、友とかかわりたくなる、友とかかわる必要が生まれるように授業展開を工夫した。 ・総合的な学習の時間などで探究的な学びの機会を設け、納得解を得られるような活動を行ってきた。 ・たてわり班での体づくり運動や毎朝全校で取り組んだムレンジャー体操などを行い、健やかな体の育成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元内自由進度学習の充実を目指し、講師を招へいしての職員研修を2回行った。子どもたちの実態に合わせ、担任が学んだことを生かしながら授業改善に努めた。児童のつまづきに寄り添うことで、児童自身が問題解決の方法を考え、自ら学びを進める姿がられた。 ・友と学び合う中で、なぜそうなるのか、どうしてそう思うのかなど、納得するまで追究する姿勢が育ってきた。 ・中学年の外国語活動や高学年の外国語の授業だけでなく、低学年の教室でもALTが授業に参加して、楽しく外国語や外国の文化を学ぶ機会をもつことができた。 ・町からの教材費の補助を活用し、必要な教材を購入することができた。また、移動の際にはスクールバスを利用できたことで、日程調整を容易に行うことができ、児童への負担も軽減できた。
課題	
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の更なる実現を目指し、必要感のある協働的な学びの在り方について研究を推進し、子どもたちが主体的に学ぶ学習者となるように、授業や家庭学習の取り組み方について検討していく。	

【三水小学校】	
教科担任制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・理科専科（町講師）の配置 ALTとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・週12時間 ・職員との情報交換 校外学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス、町バスの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科専科の町講師を配置していただくことによって、教科授業の充実をはかることができた。 ・ALTの先生を配置していただくことによって、外国の先生と直接触れ合える外国語学習の充実や、生活の中での多文化交流ができた。また、職員研修にも参加していただき、出身国の小学校の様子など情報交換することができた。 ・スクールバスや町バスが利用でき、時間や予算等を心配することなく課外学習を計画実施することができた。
課題	
<p>来年度も理科専科の配置をしていただくことができ、これまでの理科専科からの引継ぎを生かしながら、更に理科学習の充実を図っていききたい。</p> <p>ALTとのかかわりによって、児童ばかりでなく職員も多様な文化交流への関心をもてた。来年度は、外国語科専科がいなくなり担任が外国語の授業をすることになるため、さらにALTと連携をとりながら、外国語授業の教材研究を図っていききたい。</p> <p>来年度も引き続きスクールバスや・町バスを活用し、校外学習の充実に努めていききたい。</p>	
【飯綱中学校】	
課題に粘り強く取り組み、自らの学びを調整しようとする生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・数学ティームティーチング(全学年) ・授業を見合う会(研究授業 年2回) ・教育相談(隔週水曜日) ・朝学習(隔週木曜日) ・授業評価アンケート 	<p>中学校授業評価アンケートの結果から、多くの生徒が授業内容を理解しやすいと感じ、教師の指導に満足していた。</p> <p>特に、自ら学ぶ意欲を示している生徒からは、現在の教育方法が内発的動機づけを促していること把握できた。この積極性と探究心を次年度以降の研究テーマに扱うことで、一層の発展を図る。</p>
課題	
<p>上記アンケートでは「教科によっては理解しにくい」との意見があることから、「授業のスピードや内容」に対する改善の余地がある。これらの意見は、今後、探求学習をより効果的に行う上で改善すべき点を受け止め、次年度以降の研究課題として扱う。</p>	
【教育委員会】	
<p>自由進度学習等を取り入れ、それぞれの子ども達にあった学習の実践を行っている。</p> <p>ALTについては小学校で1人、中学校で1人の合計2名を配置して国際感覚やグローバル人材育成に対応している。</p>	

③ 心と体を育む食育の推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】	
<ul style="list-style-type: none"> 栽培活動で自らが育てた作物を調理したり地域の方に作り方を教えていただいたりしながら地域に伝わる食文化について学ぶ。 児童会給食委員会が中心となり、こだわり献立を考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生は大豆を栽培、収穫し、地域の方に教えていただききな粉や豆腐づくりを行った。 3年生は、りんごの栽培について地域の方から継続的に学ぶことができた。 5年生は、お米の栽培について、田植えから稲刈り脱穀などを地域の方に教えていただきながら進めることができた。 6年生は、昨年度収穫したお米を米粉にし、地域の方に教わりながらやしょうま作りを行った。 ほかにも育てたサツマイモで焼き芋を味わったり、ポップコーンを味わったりすることができた。
課題	
<p>今後も計画的に活動していくとともに、受動的な学びではなく、自らが問いや願いをもって活動に取り組むことができるように、地域の方と連携して進めていきたい。</p>	
【三水小学校】	
<ul style="list-style-type: none"> 食物を大事にし、食物の生産等に関わる人々へ感謝する心を育てる。 食文化や食に関わる歴史を理解し、尊重する心をもつ。 お弁当の日を実施し、生活にいかす実践力を培う 	<ul style="list-style-type: none"> 大豆の学習や田んぼの学習において、だんごりの会や地域の方から、飯綱町の食文化や食の歴史を学び、先人の知恵や苦勞を知り、食物を大切にする心を育むことができた。 栄養教諭から学年ごとに食育指導を受け、お弁当の日の実施など、食に対する実践力を培うことができた。
課題	
<p>今後も引き続きだんごりの会の皆さんを中心に、地域の食文化や生産について学びを深めていきたい。</p> <p>お弁当の日では、各学年無理なくできることを目標とし、どの学年も自分がお弁当作りに関わることで食事のありがたさを感じることができた。来年度も栄養教諭の協力を得ながら実施していきたい。</p>	
【飯綱中学校】	
<ul style="list-style-type: none"> お弁当の日 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で食品を選択する能力、彩りや栄養のバランスから心身の健康への配慮、主食：主菜：副菜の比率から実感する食事の重要性、使った調理器具を自分で片づける社会性、以上の観点を個別カードに沿って計画・実施した。
課題	
<p>主食を「ご飯」に絞ることで栄養バランスが整えやすいこと、中学校卒業後の生活ではお弁当が必要になること等、生徒が主体的な生活を送れるよう、教科横断的に学校全体で指導することで、食への意識を高めたい。</p>	

<p>【教育委員会】</p> <p>給食については米、味噌、りんごについては100%町内産を使用している。ジャガイモやタマネギ、しめじなども平均して町内産で50%以上の使用率である。地産地消をむねとし、町内産で賄えないものもできるだけ県内産の食材を使用するよう努めている。</p>

④ GIGA スクール構想の推進

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【飯綱中学校】</p>	
<p>生徒一人1台端末の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科学習 ・学年行事 ・生徒会活動 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は教育活動の様々な場面でタブレット端末の活用を日常化している。また欠席時等の家庭学習や学級活動への参加等、生徒個別の実態にも応じて活用を継続する。
<p>課題</p> <p>タブレット端末の浸透と並行し、対面でのグループ活動や具体物の利用等、集団学習の良さを見極め各単元・授業で効果的に行うことで、学校で共に学ぶ良さを生徒が実感できる学習場面を研究する。</p>	
<p>【教育委員会】</p> <p>令和5年度は、教員の校務用端末とネットワークの更新（5年ごと）を実施。ネットワークの整備を行うことにより事務の軽減、働き方改革につながっている。 （牟礼小学校：36台、三水小学校：30台、飯綱中学校：32台）教育委員会：2台（学校とのネットワーク用）</p>	

(2) 誰もが安心して教育を受けられる環境の整備

① 支援が必要な児童生徒への対応の充実

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・中間教室や通級指導教室などの役割をもついづなっ子ルームを設置し、多様な児童の学びの場としてきた。 ・1学期には、スクールソーシャルワーカーによる6年生への授業と全員面談を行った。スクールソーシャルワーカーには、不登校傾向のある児童の保護者とも継続的に懇談をしていただいた。 ・支援会議や登校支援会議、スクリーニング会議を定期的開催し、支援の在り方について情報を共有した。 ・支援員連絡会を行い、支援が必要な児童などの情報を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況を一覧表で確認し、欠席が続いている児童については、担任から様子を確認したり、スクリーニング会議で対応等を検討したりして早期対応に努めた。 ・不登校傾向がある児童については、登校支援委員会を中心に保護者とも情報を共有し、支援にぶれがないようにしてきた。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーにも助言をいただき、児童の気持ちが徐々に上向いている。 ・情報共有を図ってきたことで、支援が必要な児童に対し、多くの職員が同一の支援を行うことができている。同じ支援を行うことで、児童の混乱を軽減することができている。 ・いづなっ子ルームを異学年の児童が同じ時間に利用していても、安心して活動できる雰囲気ができている。誰もが安心して過ごせる場の一つとなっている。

<p>課題</p> <p>早期対応はもちろんであるが、安心して過ごせる学級、学校であることが大前提であるので、今後も人間関係づくりを常に行っていく。</p>	
<p>【三水小学校】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・DV、ヤングケアラー、不登校児童に対して、他機関と連携をとりながら、支援の充実を図る。 ・スクールソーシャルワーカーとの連携 ・高学年児童の全員面談の実施 ・全職員との面談計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVやヤングケアラーに対して、町諸機関（町教育委員会・福祉課・児童相談所等）と密に連携をとり、情報を共有し、児童が安心して学校生活をおくることができるよう努めた。不登校児童に対しても、町の諸機関と情報を共有しながら、その子にあった支援の在り方を探ることができた。 ・高学年全員面談を実施することで、児童に対するきめ細やかな支援につなげることができた。また、職員とも面談を行うことによって、職員のメンタルヘルスの活用にもつなげることができた。
<p>課題</p> <p>引き続き諸機関との情報共有や連携を図りながら、個々に応じた対応の在り方を図っていきたい。</p> <p>スクールソーシャルワーカーとも引き続き連携をとりながら、児童、保護者、職員への相談体制の充実を図りたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】</p>	
<p>学級集団理解、生徒理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の状況把握と対応の決定 （全職員）年度当初、毎月（職員会議）、毎週 （生徒指導担当者）毎週 ・アンケート（生徒、保護者） ・個別相談 ・支援会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、生徒の様子や保護者の意見等を早く共有することで、適宜適切な対応を行った。 ・アンケートから、生徒の自己管理・集団生活・対人関係等を客観的に把握し、以後の指導に反映した。 ・生徒の悩みや保護者の意見等の相談について、職員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが対応し、解消に努めた。 ・入学前の移行支援会議で支援内容を検討し、継続した支援を行った。また入学以降には卒業後の進路指導も行った。
<p>課題</p> <p>生徒同士が学校生活を通じてお互いの関係の作り方を学び、他者また自己理解を深めていく。そのため担当職員が、諸活動の意図と手段を共有・実施していく。</p>	
<p>【教育委員会】</p> <p>牟礼小学校に中間教室（いいづなっ子ルーム）を設置。不登校やいじめについて特別支援委員会、合同研修会、学習指導研修会などを行った。</p> <p>子育て支援センターが核となり、学校、家庭、福祉課、児童相談所等と連携を図りながら子どもの安全・安心を保障できるよう取り組んでいる。</p>	

② インクルーシブ教育・支援教育の充実

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間教室や通級指導教室などの役割をもつ いいづなっ子ルームを設置した。 ・ 朝の時間などに人間関係づくりを大切に した活動を年間を通して行ってきた。また、 授業でも個を大事にする声かけを心掛け た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いいづなっ子ルームはいつでも受け入れる ことはできる状態である。養護教諭を中心 に、職員が対応することができる体制づく りができた。 ・ 年度当初より、週に1回の人間関係づくり の時間を確保するようにした。最も基盤と なる部分であるので、今後も継続的に行い たい。
課題	
<p>子どもたちをあたたかく包み込むことができるように職員の人権感覚や子どもの見とり方など、児童理解、学級づくりといった専門性をさらに高めていきたい。</p> <p>週1回の集団ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターなどに取り組む時間は、今後も欠かさずに行っていきたい。</p>	
【三水小学校】	
<p>多様な児童に対する学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援員との連携と情報共有 ・ リソースルームの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な児童に対する学びの場を整備できる よう、支援員とも情報を共有しながら、個 に応じた対応に努めた。 ・ リソースルームを設置はしたが、児童の学 びの場の選択がされなかった。
課題	
<p>児童に対して一律に対応するのではなく、児童の多様性を認め、その子が必要とする学びの場を整備できるよう、支援員とも情報を共有しながら努めてきた。</p> <p>本年度リソースルームを個別に支援が必要な児童への活用には用いなかったが、自由進度学習や協働学習する際の学びの場として利用が可能であったのではないかと考える。リソースルームの在り方、有効的な活用等、職員で探っていきたい。</p>	
【飯綱中学校】	
<p>共に学び育つ教育、連続性のある「多様な学 びの整備」、柔軟な学びの場の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数職員での個別支援、支援会議を継続し 生徒・保護者の願いに沿った支援の具体を 見直し、実施した。 ・ 全ての生徒同士が関わり、その良さを感じ 取れる学習活動を設定した。また実施後の 考察から改善点を反映した指導を継続し た。
課題	
<p>学級担任は、特別支援学級入級生徒を教科授業、学級活動等で指導にあたり、当該生徒が原級と関わりをもつ学級運営の視点から、心理的な安定、人間関係の形成、また環境の把握も含めた自立活動に繋げることを継続実施する。</p>	
【教育委員会】	
<p>各学校に町費の支援員、介助員、講師を配置し、インクルーシブ教育を推進し、きめ細やかな支援に努めている。(牟礼小学校：支援員4人、介助員2人・三水小学校：支援員4人、介助員2人・飯綱中学校：講師4人)</p>	

③ 多様性を認め合う人権感覚の育成

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】	
<ul style="list-style-type: none"> ・11月を人権教育月間として、人権教育に重点をおいて取り組んだ。 ・校長講話で、いじめや人権についての話をし、個々で考えたりクラスで話し合ったりする機会をもった。 ・わくわく未来塾を開催し、多様な生き方や考え方に触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育月間だけでなく、普段から人権を大切にしていた取り組みを心掛けてきたことで子どもたちの心が育っていると思われる。 ・第3回のわくわく未来塾では、人権教育月間にあわせて国際理解の視点でのお話をさせていただいた。直接お話を聞くことができる貴重な機会となった。
課題	
<p>学校運営の柱にもなっている多様性を認め合う仲間づくりの推進については、様々な場面で行うことができるように職員の意識を高めていきたい。</p>	
【三水小学校】	
<p>たてわり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり清掃 ・たてわり体育 <p>個別最適な学びの場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では活動の制限があったが、本年度は様々な場面でたてわり活動を行うことができた。 ・職員全体で授業改善に努め、特に自由進度学習の在り方について情報交換や自主的授業公開をしながら授業研究することにより児童自身も他との比較ではなく、個の学びを追求したり、他者の学びを認めたりすることができた。
課題	
<p>異年齢どうしが触れ合いながら認め合うことができるたてわり活動の充実を、来年度も引き続き充実していきたい。</p> <p>個別最適な学びへの授業改善を図りながら、個の自己肯定感を高めるとともに他者理解を深めようとする児童の育成に努める。</p>	
【飯綱中学校】	
<p>全教育委活動の中で、認め合い、支え合い、共に高まる人間関係の樹立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年二回の月間学習における学年別の学習の実施 ・各教科における人権的配慮に基づく判断力や態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・各月間学習では、各学年の発達段階に基づき、身近な差別と部落差別をそれぞれ扱った。学習集団は、扱う題材に応じて学級・学年で実施した。また月間の第1時間は校長講話で扱い、全校生徒の学習意識統一を図った。 ・各教科での指導は、単元・授業等で効果的な学習場面で実施した。
課題	
<p>生徒が自ら考え、主体的に判断し、より良く生きる上で、現代社会の諸問題も含め、生徒に必要な題材を計画的に扱いたい。</p>	
【教育委員会】	
<p>コミュニティスクール運営協議会が核となり、地域との連携や地域住民との交流事業を進めてきた。</p> <p>ALTを採用することにより、子どもたちの国際感覚や多様な価値観の育成に努めている。</p>	

④ 教職員の指導力の向上と働き方改革の推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】	
<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びを支える教師の在り方について、単元内自由進度学習を切り口にした職員研修に学習支援員、介助員も参加して支援の仕方を学んだ。 見守り隊の登下校支援や地域ボランティアの方による1年生の見守り支援やミシンの支援など、多くのボランティアの方に支援をいただいた。 ボランティアの方には、出欠確認簿に来校時刻と退校時刻を記入してもらい、在校中は名札をつけていただいた。また、1週間分の計画表に名前を書いていただき、いつ誰が参加できるのかを明らかにした。計画表は職員室で入り口付近に掲示し、誰もが確認できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援員、介助員は直接指導するのではなく、子どもたちが自立した学びを進めていくことができるようになるための支援を意識して行っている。 保育園からの移行をスムーズに行うことができるように、1年生は、入学式翌日から5時間授業日の下校時刻とした。朝や午後の時間は遊びを中心に活動してきたが、ボランティアの方の見守りのおかげで、安全に安心して活動することができた。また、校外学習時やミシンの学習の時など、ボランティアの方に来ていただいたことで、安全に配慮して活動することができた。
課題	
<p>より多くのボランティアの方に、より多くの時間学校にいていただけるように、ボランティアルームの活用を進める。また、ボランティアの方の支援について職員への周知を進める。</p> <p>学習支援についての研修を学習支援員や介助員も参加することができるように開催時刻などを配慮する。</p>	
【三水小学校】	
町学校職員会への参加	<ul style="list-style-type: none"> 町学校職員会への参観や、公開授業クラスにおいては支援員も含めて授業づくりをするなどの研修をおこなった。
課題	
<p>町講師や支援員も参加できる校内研修（多様な子どもへの関わり等）の充実を引き続き図っていく。</p>	
【飯綱中学校】	
<ul style="list-style-type: none"> 校務効率化を目指す情報共有の手段 委員会活動や総合的な学習の時間でのボランティア活動 地域クラブ活動への移行に向けた部活動の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 即時性の高い情報は校内支援システムで適宜連絡・周知 職員会議の議題は電子媒体で事前に閲覧可能とし、会議中は留意点を扱うことで時間短縮とした。 地域の特別養護老人ホームと、鉢植えや手紙等での交流、また3年生の町内の清掃活動を、それぞれ実施した。 生徒数に応じ、部の統合・廃止等の必要性を近年継続的に検討している。
課題	
<p>部活動の地域クラブ活動への移行では、生徒の願いを把握しつつ、町の動向から部活動を段階的に移行できるよう検討・準備する。</p>	

<p>【教育委員会】</p> <p>学校運営協議会において地域とのかかわりなどを中心とした授業やテーマについて研修を行い、町教職員研修への参加による研修や交流会等の実施することで地域と学校の連携を図り理解を深めている。</p> <p>部活の地域移行を視野に学校との調整を行っている。</p>
--

⑤ 学校施設等の計画的な改修

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検を実施した。また、安全点検時の注意事項を周知し、児童の目線での安全確認を実施した。 安全点検時以外でも危険個所があれば早急に対応することができた。 PTA 校外指導部を中心に通学路の安全点検を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震時に転倒の恐れのある棚の固定などを校務技手が行った。また、校務技手では対応が難しい場合は、業者に連絡を取り、対応することができた。 通学路点検の結果を教育委員会とともに夏の点検で確認することができた。 見守り隊の方々に登下校時に見守っていただき、児童が安心して登下校することができている。
<p>課題</p> <p>専門家を招聘して、校内の危険個所についてみていただき、指導していただく機会をもちたい。</p> <p>校舎内外の巡視を行い、危険個所については早期の発見、早期の対応をしていきたい。</p>	
<p>【三水小学校】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサル型トイレの設置 教室環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 車いす利用の児童に対して、ユニバーサル型トイレの設置やトイレ内の手すりの設置、教室及び保健室の扉を3枚引き戸にした。
<p>課題</p> <p>来年度も車いす利用が継続されるため、引き続き必要な設備を町と連携しながら設置していきたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】</p>	
<p>毎月の校内安全点検 スクールバス利用者を毎回把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校内各所に年度当初から管理責任者を分担し、月初めや長期休業前後に定期的に点検した。また故障・不具合等は即時報告し、校務技手を中心に修理することで、安全な施設維持に努めた。 毎回のバス利用を生徒が申請することで自主性のある学校生活となった。 特別日課等でも利用できるよう、月別計画で対象生徒を確認した。
<p>課題</p> <p>消耗部品の交換が増えてきたことから、定期点検以外でも、各所への環境配慮を強める。</p>	
<p>【教育委員会】</p> <p>各学校からの申請により、改修などの整備工事を実施し教育環境の整備に努めた。（牟礼小学校：特別教室等の屋根修繕工事等、三水小学校：トイレの改修工事等、飯綱中学校：駐車場区画線設置工事等）（3校全体の年度の工事費は1億1,300万円）</p>	

方針2 子育て・子育て環境の充実

目標 豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう

(1) 子どもが生き生きと育つ環境づくり

重点的な取組等とその状況	評価
<p>①長野県立大学健康発達学部こども学科との連携（子育て支援係） 「専門講座の実施」「学生及び研究生の参加協力と地域交流」などの実施と子育て支援センターの室内環境づくりで大学の協力をいただく。</p> <p>②子育て世代支援施設（みつどんのお家）の充実（子育て支援係） 子育て支援センターを拠点に健康推進係と連携し、おっぱい教室や健康・栄養相談を開催。</p> <p>③子どもが安全・快適に過ごせる環境づくり（こども保育係） 保育施設の改修や増築、ICT機器の導入など環境整備を行う。</p> <p>④障がい児保育の充実（こども保育係） 令和5年度より南部保育園に四肢不自由な児童が入園予定のため、スロープ設置などの環境整備を行うとともに、看護師の採用準備を行った。</p> <p>⑤ファミリー・サポート・センター事業（子育て支援係） 子育て世代支援施設の開所とともに、託児にあたっては施設での託児も可能とした。</p>	<p>①長野県立大学の教授等から、最新の子育てに関する講義を受けられる貴重な機会となったり、学生による乳幼児とのふれあいにより、新たな環境づくりが進んでいる。</p> <p>②各種教室や相談を、子育て支援センターで行うことで、子育て支援施設が子育ての拠点に定着しつつある。</p> <p>③りんごっ子保育園の保育室へのエアコン設置や全園へ非常通報装置を設置するなどのICT化を行い、安全・安心な環境整備を行うことができた。</p> <p>④一人ひとりの子どもの発達過程や心身の状態は様々で、個々の発達に応じた保育を行うため、加配保育士を配置するなどの配慮を行っている。保護者からの相談により、障がいのある児童もできるだけ受け入れられるよう環境の整備を行っている。</p> <p>⑤未就園児の託児は提供会員の自宅だけでなく子育て世代支援施設でも行えるため、提供会員と依頼会員ともにより安心して活動を行えるようになったが、依頼状況は依然として低調である。また、提供会員の高齢化、なり手不足も顕著である。</p>
課題	
<p>県立大学とは令和5年度より連携協定を結び、町の子育て環境の充実のため、より一層の連携事業の活用を図る。</p> <p>また、子育てをしているママ達は、託児をして仕事に集中できる場、気分転換を図るため趣味を行う場、ママ友などと気軽におしゃべりを行う居場所等が必要であり、子育て中のママ達の様々なニーズに対応できるよう、子育て世代支援施設の運営、環境づくりを図っていきたい。</p> <p>保育所の運営では、保育ニーズに対応した保育を進めるため、保育士の確保に努めたい。また、老朽化している施設の計画的な修繕等を進めていく必要がある。</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業では、提供会員の確保に向け、子育て中の方や子育てがひと段落した方々など、より多くの方が活動できるよう、受講しやすい養成講座について検討が必要である。また、依頼数が少ないことから、周知・広報に工夫が必要である。</p>	

(2) 楽しく子どもを育てられる環境づくり

重点的な取組等とその状況	評価
<p>①子育て世代支援施設（みつどんのお家）を子育ての拠点に（子育て支援係）</p>	<p>①きめ細かに対応するため、健康管理センターの保健師、栄養士との連携を強化し、子育て支援センターでの定期健康・栄養相談</p>

<p>妊産婦から18歳までの児童を切れ目なく長期にわたって支援を行うことが可能となり、各種教室、相談事業などを実施する。</p> <p>②ワークセンター事業（子育て支援係） 女性が安心して子どもを産み育てられるよう、ワークセンター（iワーク）を拠点に、仕事と育児等の両立に向けた働き方の提案と働く意欲のある子育て世代への支援を行った。特に、女性活躍推進交付金事業を活用し、女性起業応援プロジェクト事業として、SNS発信講座とマーケットイベントを開催する。</p> <p>③病後児保育事業（子育て支援係） 登録は町内外児11人の登録があり、利用はなかった。</p> <p>④放課後児童健全育成事業（児童クラブ）の実施（こども保育係） 町内5つ児童クラブを設置し、小学生の放課後の活動の支援を行う。また、土曜日及び学校の長期休業中も一部の児童クラブを開設し対応している。</p>	<p>回数を増やすことにより、相談者数も増加し、多くの相談に応じることができた。</p> <p>②SNS発信講座は、起業・出店につながる内容で実施できた。マーケットイベントでは、講座の受講者や町内の女性起業家、町内事業所、女性農業団体などの出店により、多くの交流が生まれた。</p> <p>③病後児保育事業は、事業開始以降、毎年予約日数、利用日数共に4日前後で推移している。お子さんの病気はいつ発症するか予測しにくいいため、できるだけ急な申込みにも対応したいと考えている。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症は第5類になったが引き続き対策をとりながらの運営を行った。町内の感染者数の状況を見ながら、時には家庭の協力を得るなど、運営の工夫や設備の改修、マスクの着用や自己健康観察など、児童クラブ内でクラスターを発生させないように、感染対策を徹底した上での運営を行った。</p>
<p>課題</p>	
<p>子育て世代支援施設は、iワーク、子育て支援センターの各機能に加え、母子保健機能（産婦検診及び乳幼児健診等）が1つになったことから、子育て支援のワンストップ化を図り、仕事、起業、交流、相談、学習、育児発達の支援の強化を一層進める必要がある。また、施設の利用ニーズに合わせ、施設の運営管理基準や利用基準、職員配置計画などが必要となっている。</p> <p>ワークセンター（iワーク）事業では、センター機能をより広く発信するとともに、若者、女性の移住促進や少子化の改善に繋がられるよう、従来の事務事業の見直しと利用者のニーズに対応する新たな支援施策を提案していきたい。</p> <p>また、病後児保育事業については、保育室が独立しており感染予防は十分である反面、設備の維持管理や、担当者がある子育て支援センターと距離があり移動に時間がかかる等の面もあり、実施場所や内容等を引き続き検討していく。</p> <p>児童クラブの運営では、小学校統合以降、利用状況に変化がみられ、牟礼小学校内（牟礼東児童クラブ）、三水小学校内（三水児童クラブ）に利用者が集中するようになっている。指導員の確保やクラブ室のスペースなど、安全に預けられる環境整備が必要である。</p>	

(3) 子育てをしている女性への支援

重点的な取組等とその状況	評価
<p>①切れ目ない子育て支援 ②延長保育等保育事業の充実（こども保育係） 3歳未満児保育、長時間保育、土曜日保育等を実施し、子育てをしている女性の支援を行う。</p>	<p>①妊娠期からの切れ目ない支援のため、子育て世代支援施設を中心に各種教室や相談事業等の支援を行っている。保育園期、小中学校期においては、教材費の補助などの経済的支援や加配保育士、学習支援員等の配置など、妊娠期から子育て期において様々な支援を行うことができています。</p> <p>②3歳未満児の入園希望は年々増加しており、できるだけ希望に添えるよう対応している。また、同様に長時間保育、土曜日保育の希望も増えているができるだけ需要に</p>

	対応できるよう保育士の確保などに努めている。
課題	<p>妊娠から就園まで、保育園から小学校へ、小学校から中学校へと、切れ目ない子育て支援を行うためには、それぞれの連携はもちろんのこと情報の引継ぎが重要となる。引き継ぎがスムーズにできるよう保・小（小・保）接続プログラムの作成を進める必要がある。</p> <p>また、保育事業では、各サービスの利用者の増加に伴い保育士の確保が課題となっており、会計年度任用職員を含め計画的な職員採用が課題となっている。</p>

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

目標 健全な心と体を育てよう

(1) 多様な活動機会の創出

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【生涯学習係】</p> <p>①スポーツ協会、文化協会への補助金交付 多くの町民が文化芸術・スポーツに親しむ関連団体に対し、補助金の交付を行う。</p> <p>②社会体育施設、学校施設の開放 町内の団体や個人が、文化芸術・スポーツ活動に親しむ機会の創出のため、各種施設の開放を行う。</p> <p>③各種スポーツ教室の開催 冬季運動教室（ヨガ教室）や幼児・小学生水泳教室、アクアフィットネス教室などスポーツ教室を開催する。</p>	<p>【生涯学習係】</p> <p>①町スポーツ協会、スポーツ少年団、文化協会をはじめ、婦人会などの社会教育団体へ活動補助を行った。コロナ禍も明け各種団体の活動も徐々にふえてきている。</p> <p>②コロナ禍による施設開放の制限もなくなり、利用者数もコロナ禍前に戻りつつある。ただ、コロナ禍が終息したわけではないので、引き続き感染予防に注意しての開放となる。</p> <p>③コロナ感染症が第5類の扱いになったが、町内の感染状況をみながらの開催となった。健康増進のためのスポーツ教室の開催ができた。</p>
課題	<p>コロナ禍による各種団体や個人の活動、公民館事業等の中止や縮小により、地域コミュニティの場、地域間交流の場は限られてきた。コロナ禍は緩和されてきたが地域コミュニティを見直す良い機会と捉え、今後の事業や行事の企画に生かし、積極的な事業展開を図っていく。</p>

(2) 文化の保存・継承・活用

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【生涯学習係】</p> <p>①文化財調査委員会を文化財保護審議会へ改組 専門職員が減少する中で、専門的な知識を持つ方を審議員として委嘱し、意見を申し出ることができる権限を持たせることで、保存や活用に力を入れている。</p> <p>②文化、芸術に関する各種講座の開催、歴史ふれあい館特別展の開催 歴史講座や小学生を対象にした芋川用水見学会など各種講座を開催する。また、飯綱町の「地形模型」の制作更新を行う。</p>	<p>【生涯学習係】</p> <p>①条例改正に伴い文化財保護審議会が発足し、検討中となっている指定案件の審議に弾みをつけたところだったが、今年も感染症対策等の影響から会議開催や視察はやむなく停滞した。指定を検討することは埋もれた町の文化資源が再発見される貴重な機会であり、住民の文化財への関心が高まることが期待される。</p> <p>②地域の自然・歴史・文化等を扱う拠点である歴史ふれあい館の展示改善や魅力的な企画展の開催など、町政20周年を目途に計画</p>

<p>③指定文化財の適切な保護管理 補助金の交付や文化財の通年管理を行う。</p> <p>④埋蔵文化財の保護 開発に先立つ発掘調査や記録保存作業を行う。</p> <p>⑤ふるさとへの誇りや愛着心の醸成を図る 町の伝統や自然、歴史に関する各種講座の開催。</p>	<p>的に進めるため基本構想を策定することができた。</p> <p>③指定文化財の保護のため、防犯カメラ設置や高枝除去のための補助を急遽行う。不安を抱える所有者に、迅速な対応ができた。</p> <p>④文化財保護法に基づき、試掘確認調査や工事立会などを実施した。</p> <p>⑤子どもたちの夏休み期間中に芋川用水を見て歩く見学会を開催。子供から大人まで水をテーマにふるさとへの誇りや愛着心を醸成するきっかけとなるようなイベントを開催することができた。</p>
<p>課題</p>	
<p>文化財所有者は日頃から防犯や安全上の懸念を抱えている。今後も所有者の不安に寄り添いつつ、適切な文化財の保存管理に取り組む。</p> <p>また、埋蔵文化財の保護では、開発事業者による法に基づいた届け出義務及び、届出までのフローチャート等を作成するなど、理解が深まる周知方法を模索・試用しながら進めてきた結果、理解は深まってきている。しかし、書類の記載内容や留意事項に対しての理解が十分浸透していない様子が見受けられるので、今後も引き続き周知していく。</p>	

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

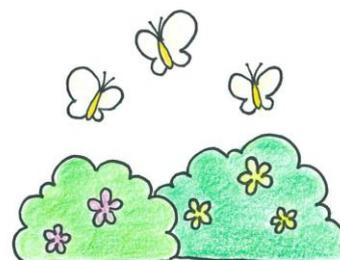
目標 学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう

(1) 多様な学習機会の創出

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【生涯学習係】</p> <p>①公民館活動 町民球技大会や元旦ジョギング大会等の町民参加型スポーツイベントを開催した。公民館図書室を中心に読書活動の推進を図った。</p> <p>②いっぴな大学、いっぴな教室の開催 生涯、活躍を続けるアクティブシニアの養成を目指し開催した。</p>	<p>【生涯学習係】</p> <p>①コロナ禍により、町民運動会や球技大会などのイベントは中止や規模を縮小しての開催を余儀なくされてきたが内容を工夫して開催した。</p> <p>②コロナ禍の影響や学びの場の多様化などにより、いっぴな大学の受講者は減少となった。開催回数、開催時間、定員数をコロナ禍前に戻し、感染予防を徹底したうえで回復に努めた。</p>
<p>課題</p>	
<p>コロナ感染症により、事業の縮小や中止が数年続き、地域コミュニティの場である社会教育・公民館活動の停滞が余儀なくされた。徐々に行事等も再開しつつあるが、コロナ禍前にも参加者が減少し、特に公民館行事は分館の人集めが課題であり、あわせて行事等のマンネリ化が課題となっていた。そんな中、球技大会では大幅に種目の入れ替えを行い成功している。コロナ禍を見直しの良い機会と捉え、地域コミュニティの場として、積極的な事業展開を図っていく。</p> <p>いっぴな大学は新たに受講を希望される方は少なく、継続者がほとんどである。一方いっぴな教室の受講者数はほぼ横ばいで、新たな学びのスタイルとなっており、今後の事業の進め方を考えていきたい。</p>	

(2) 生涯学習拠点の充実

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【生涯学習係】</p> <p>①町民会館（公民館）、歴史ふれあい館の改修</p> <p>②ふれあいパーク運動場照明のLED化と三水B&G海洋センター体育館の改修</p> <p>③協働電子図書館「デジとしょ信州」運用開始</p> <p>インターネット蔵書検索^{ウェブオパック}WebOPACによる町内図書の貸し出しとともに、協働電子図書館「デジとしょ信州」の参画。</p> <p>④スポーツ協会、スポーツクラブ、文化協会との連携</p>	<p>【生涯学習係】</p> <p>①町民会館は建設後34年が経過し、建物や設備等の老朽化が進んでおり、計画的な改修整備のため設計に着手した。また、歴史ふれあい館も合併20周年に向けて、リニューアル基本構想を策定する。</p> <p>②ふれあいパーク運動場照明のLED化を図るため、改修工事に着手した。（3年計画）また、三水B&G海洋センター体育館の老朽化等に対する改修を進めるため、B&G財団の助成事業の申請を行い採択となった。</p> <p>③県と県下市町村がすべて参加した協働電子図書館「デジとしょ信州」が昨年8月からスタートした。現在の登録者数は72人、本年度の貸出件数は391件であった。身体的・環境的・地域的・経済的なさまざまなバリアを超えて自由に図書サービスを受けることができるようになってきている。</p> <p>④中学校の部活運営が地域移行になることにより町組織での受入れと体制作りの検討。</p>
<p>課題</p>	
<p>既存の社会教育、社会体育の生涯学習施設は建設から年数が経過し老朽化が進んでいる。長寿命化のため計画的な改修を行っていく必要がある。</p> <p>また、中学校図書館の開放では、中学校図書館の役割の一つである「調べ学習に適した滞在型の図書館」としての利用が全体の約50%を占めている。今後も公民館図書室、中学校図書館の用途に応じた運営が大事になってくる。</p> <p>部活の地域移行では、当町だけでなく近隣市町村との調整も必要になり令和8年の完全移行に向けて県及び各組織、保護者を交えた懇談が急務になっている。</p>	



学識経験者からの意見聴取の結果

方針1 ふるさとに誇りをもって豊かな人生を歩める力を育む教育環境をつくりま

<<小学校>>

- ・子どもの個性を重視して学んでいるのが感じられた。
- ・どの子ども達も目が輝いていて活動していて安心した。
- ・中学生になった子と会った時に、良い方向に成長していると感じたことがあった。
- ・地域との交流、学年合同での授業等子ども達がお互いに支え合いながら学ぶことが出来ていて先生方の努力が感じられた。
- ・先生方の子ども達への指導が、学習・清掃活動等を感じ取れた。
- ・体験学習も大切にされ、更に北部高校生との交流も大変でしょうが、子ども達の発達では価値のある交流であると思う。
- ・学習指導の3要素（ステップ）の更なる充実を願う。
 1. やり方をしっかり教える——教えられる側は「分かった」となる。
 2. やり方を身につける——「出来る」という状態をつくり出す。
 3. やり方が十分に身につく——習熟、つまり「大丈夫」となる。大切なのは、1と2のステップ。「やり方」が分かり「出来る」となること。先生方の更なるスキルアップに期待している。
- ・力強く書かれた書道の展示があり、うれしく思った。
- ・図書館の授業で代本板の使い方をやっていて、それを使うことで他の本を見て興味を持つことが出来、良いことだと思う。
- ・野球の指導の経験上、ある程度は厳しく指導するが、褒めることや先輩のやることを真似る等繋がりを持つことも大切だと思う。そういう点では、北部高校との交流は良いことだと思う。
- ・いろいろな場面で縦割り学習を取り入れているが、以前はもっと多くの場面で縦割り学習をしていたのではないかと思う。上級生が下級生を教えることは、教える方も自身を持つことが出来て良いことだと思う。
- ・ふるさと学習などで子どもたちにふるさとの良さ、伝統を伝えているが、子どもたちだけでなく、伝える側の大人も大変勉強になっている。
- ・学校は先生が勉強を教えるところだと思っていたので、委員としてタブレットを使った学習や自由進度学習を始めて見たり、聞いたりした時は驚いた。何回か足を運ぶうちに、それを見る自分が変わった。親として見る目と地域の人の見る目は違う。地域の見る目もどんどん取り入れていく事が大事。
- ・子どもを小さいうち、未満児で保育園に預ける親御さんが増えている。両親共働きが増え、親は忙しい時代になっている。保育園や学校も地域の協力が大事。
- ・基本的な生活習慣やしつけは家庭の中でやるべきだが、今は子どもの数が少ないこともあり学校の手も借りながらしつけをしなければならないと思う。
- ・上級生と下級生と一緒に掃除をしている様子があり、交流は良いと思うが、掃除はもう少ししっかりと一生懸命やるよう指導した方が良いと思う。
- ・大人も子どもも他の人に見てもらえる事、ほめてもらう事、感謝される事はうれしい

ことだと思う。フォローしてあげることが大切。

- ・三水小学校は茶室があるのが特徴で、先人は「茶室は家庭教育を伝えるもの」として茶道教育を大事にしてきた。授業時間の関係から茶道に関わる時間も少なくなってきたが、茶道を通じ、家庭教育の一助となればと思う。
- ・自由進度学習やタブレット端末を使った授業など、自分の子どもの時代とはスタイルが大きく変わっている。これも新しい時代の新しい暮らしをしていくための授業なのだと思う。
- ・タブレット使用と五感を使った学習の両面の工夫を更に願う。タブレット使用はあくまでも手段であり目的ではない。今が考える過渡期では。
- ・タブレットの使い方の指導について、学校教育で指導されるべき技術として必要（指の使い方）。タブレット使用中の姿勢が良くない。
- ・教科書でなくタブレットを使用する事により姿勢が悪くなり、目の健康にも悪影響を及ぼす可能性がある。
- ・タブレットを使って授業を受けているが、画面を見るだけでなく、どこをタッチすればいいかわからない子もいるため、全体で一緒に合わせる事が難しい。隣の子がアドバイスをするような仕組みや、先生が授業を進めていく中で、画面が追いつかない子の様子を見ながら、授業の進行を考える必要がある。
- ・基本的な生活習慣や態度が身につけていない、他者との関りが苦手なのが今の児童かと感じる。基本は家庭の教育からと感じるが、帰りの掃除の場面では集中力が欠けている。
- ・2年生の授業が授業なのか、休み時間なのかわからなく、言葉遣いも乱暴。
- ・あいさつについて、校内では元気なあいさつができていていると感じるが、下校時のあいさつの子が少なく残念。
- ・5年生の教室にいじめの標語があったが、廊下に飾ってほしかった
- ・集団登校時に、両手に荷物を下げて歩く下級生について、上級生が荷物を持ってあげるようになれば良いと感じた。
- ・他人に迷惑や傷つける行為はしないと伝えながら、学びの重要性を教える
- ・2年生の授業について、子どもの個性を尊重することも大事だが、ある程度の規律も必要ではないか。
- ・「自由」と「自分勝手」をはき違えてしまっては困る。
- ・教員の中で自由進度学習等についての話し合いはあるのか。
- ・長野県では、公教育・保育がメインで、私立はまだまだ少ない。私立の良さもあるが、結局家庭の経済力によって学びの格差が生まれる。
- ・時代の流れもあると思うが、学校という集団の中で学習する目的をはっきりさせておく必要があるのではないか。
- ・小学校の子供は伝える力が弱いと感じる。また聞く力も必要である。発表する場を作るなど力を伸ばしてほしい。
- ・教員のファシリテーターとしての力が必要だと思う。
- ・授業中の態度が気になる。注意することも必要で学年が上がるにつれて特に重要。自由とわがままの区別は大事で、何事にも頭ごなしに叱らずに伝える方法を模索しつつ、子どもたちが自分たちでルールを作る事も重要。

- ・注意や叱り方ではなく、子どもたちの成長の課程を見守る必要がある
- ・コロナの影響で子供たちはどう育っていくかを観察するべき。
- ・年長者との交流に是非中学生との交流（例えば夏休みでの学習合宿経費は町で保障する。）、特に6年生と中学1年生との橋渡し体験学習の実現を。
- ・学校教育は、昔も今も違いはないかと感じるが、家における手伝い等を体験させることも育成につながるのではないか。

<<中学校>>

- ・教室の棚に故障中となっていた、手で巻く発電機があり、様子を見るとねじが緩んでいるだけだったので直してみた。科学や物理に興味を持ってもらえればうれしい。
- ・学校づくりの中にネットリテラシーっていうのが出てきた。ネットリテラシーに関してはそれぞれお子さんによって差があると思うが、金融リテラシーに関しても、中学生ぐらいから学んでおくことも必要かと思う。
- ・小、中、高校と不登校の子ども達による相談が増えてきている。学校の運営方針から、多様性に対応する姿勢を大切にしていると感じている。特別支援の方に目を向けると、個別の支援計画や指導計画がしっかりされており、子供が将来に向けて希望を持つことができていると思う。また、学校に来られない子供たちには、他の場所で学びができる環境を整える必要がある。学校に来られない子ども達が、学校とは他のところできろんな学びが学べる場を地域でも進めるべきだと思う。
- ・部活動の地域移行については、参加できない理由として、町外での活動や家庭の事情があることが問題となっている。親の送り迎えが必要だったり、そのような家庭の事情で参加できる、できない等、どの様な環境の子どもにもチャンスを与えて欲しい。
- ・運動クラブの子ども達を分けるとすると、
 - A・・・上手な子
 - B・・・一般的（普通）な子
 - C・・・初めて、上手ではない子等
 Aの子は、地域移行により他（町外等）のクラブへ、B・Cの子ども達は人数不足で道が途絶えてしまう。この、B・Cの子ども達を救ってほしい。
- ・本人の希望で長野市のクラブに入る子どもたちはそれでも良いが、初めて部活をやる今後の子ども達は、指導者がいない・人数が少ない等の理由で長野市のクラブに入る。部活動が廃止となる様では、これからの子どもたちの、行く場所や未来が無くなってきていると思う。
- ・目的の明確化が必要。技術向上を求めるクラブなのか楽しみを重視するクラブなのか考慮する必要がある。
- ・部活動の移行については、地域によって対応策や指導者の役割が異なり、クラブ活動の目的によって違いがあり、技術向上を目指すものと楽しみを重視するもので対応が異なると思われる。
- ・部活動に地域移行についてすぐにも結論が必要だと思う。
- ・令和6年度以降、活動ができなくなる部活動が出てくるが、そのような状況になってから考えても遅いので、8年度には無くなることを前提に大至急考える事が必要。小学生もこの現状において、すでに長野のクラブへ加入している子どもがいる。早期に

指導者を見つける必要がある。

- ・中学校の部活動の時間帯（16時～18時）に教えられる指導者がいない。
- ・指導者不足は部活動の存続に大きな問題となっており、若い指導者の採用と報酬の改善が必要。対価や仕事条件を考慮する必要がある。
- ・専門的な外部コーチが良いのか、学校の先生等が良いのか、子ども達も自分達なりに考えているところもあるので大事な時期ではないか。
- ・昔は、生徒子ども達が強くなりた、上手くなりた、上部大会へ行きたい等の思いで入ってくる子ども達だけだと思っていた。現状は、当然強くなって全国大会に行きたいという生徒もいれば、週一、二回程度楽しく汗をかきたい生徒、子ども達もいること想定し、それぞれの目標、部活動について考えていく必要がある。

方針2 子育て・子育て環境の充実

《ワークセンター（iワーク）》

- ・学校に通っている子どもが自習などで使用できると良い。
- ・利用者のニーズを把握し、ニーズにあったセミナーなどの開催を。
- ・仕事やその他でも使えることができるのであれば利用者も増えるのでは。
- ・託児料金について、利用者の声を十分に聴き、適正な料金としていくことが必要。
- ・託児についても利用者のニーズを考えた対応をしてほしい。

《子育て世代支援施設》

- ・利用者のニーズを把握し、ニーズにあったサービスを。
- ・健康・栄養相談や育児相談は定期的な相談日があり、イベント等も長野県立大学と連携して充実している。
- ・未満児の一時保育について出来るようになればありがたい。
- ・一時保育は保育園で顔を知っている保育士さんなので安心できる。

《全般》

- ・一時保育やファミリーサポートセンター事業はあるが、手続等の時間の短縮や急な預かり等に対応できるような事務改善や新たなサービスが必要と思われる。
- ・小さな子どもが、天気の悪い日でも親子で遊べる場所の確保が必要と思われる。
- ・両施設とも利用の促進につながる施策を。
- ・長野県立大学との連携による対策が、双方にとって効果があると感じる。
- ・子育て中の世帯では、少しでも自分の時間が持てるような環境づくり、協力体制、頼れる場所があることを望んでいる。

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

- ・公民館活動は地域コミュニティの場として重要な役目を担っているが、少子高齢化に加えコロナ禍による閉鎖的な環境から個人の価値観の違いも大きくなり、みんなで集まることが減っているなか、分館にとっては人を集める行事の実施が難しくなっている。
- ・コロナ禍は落ち着いてきたことで行事やイベントが増えてきているが、今までの内容を見直し、新たな運営の方法を考えていく必要がある。
- ・中学校の部活動の地域クラブ活動への移行について、各種団体との調整を。
- ・保育園・小中学校での食育活動を積極的に行っている。学校では子どもたちが食に興味を持ち、給食の楽しさも広がっている。メニューに郷土料理を導入するなど、町の食文化に触れることはふるさと愛を育む一助となるので継続を。
- ・保育園・学校給食での地産地消率をさらに上げていく工夫を。また、有機食材の積極的な利用のため、関係機関と連携し進めてもらいたい。
- ・歴史ふれあい館において、用水や食文化などの新たな科目について調査の紹介などを行い、館内展示についてもリニューアルが必要な時期にきている。
- ・公民館図書室も手狭になり、修繕を含めて改修が必要。

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

- ・社会教育・体育施設の老朽化が進んでいる。計画的に改修を進め、自ら学び、自己を高める環境の整備を望む。
- ・AIやDX化などデジタル社会が進む中、子どもも大人も自然から学ぶことはデジタルからは学べない。町の豊かな自然を生かした生涯学習の推進を希望する。
- ・中学校の部活の地域クラブへの移行をうけ、地域で子ども達を育てる意識の高揚が必要。

